

MOCOの誇る二大国宝!



国宝
油滴天目茶碗 (ゆてきてんもくちやわん)
南宋時代・12-13世紀 建窯



国宝
飛青磁花生 (とびせいじはなひけ)
元時代・14世紀 龍泉窯

シン・体験プログラム

映像ルーム

国宝を感じる 体感! 国宝「油滴天目茶碗」

実物の油滴天目茶碗のかたちそっくりのハンズオンコントローラーを動かすことにより、4Kモニターに投影される高精細3DCGを360度好きな角度から鑑賞することができる体験型デジタルコンテンツ。触れて、見て、国宝の新たな魅力を発見しよう!



お問い合わせ・アクセス

お問い合わせ

〒530-0005 大阪市北区中之島1-1-26
大阪市立東洋陶磁美術館
TEL 06-6223-0055 (代表)
<https://www.moco.or.jp>



アクセス案内

- ・京阪中之島線「なにわ橋」駅下車すぐ
- ・Osaka Metro 御堂筋線・京阪本線「淀屋橋」駅から約400m
- ・Osaka Metro 堺筋線・京阪本線「北浜」駅から約400m

本展の主なみどころ

- ① 新設エントランスホール
- ② 珠玉の東洋陶磁コレクション
- ③ 国宝「油滴天目茶碗」を堪能! 専用展示ケース
- ④ 自然光に迫る! 最新のLED照明
- ⑤ カフェスペース、ミュージアムショップのリニューアル
- ⑥ シン・ロゴ、シン・サイン、シン・キャラクター

関連プログラム

記念講演会

「大阪市立東洋陶磁美術館の 新VIとサイン計画」

廣村 正彰氏 (グラフィックデザイナー)

2024年4月20日(土) 午後2時～午後3時 (参加費:500円)

館長講演会

「大阪市立東洋陶磁美術館の リニューアルについて」

守屋 雅史 (大阪市立東洋陶磁美術館 館長)

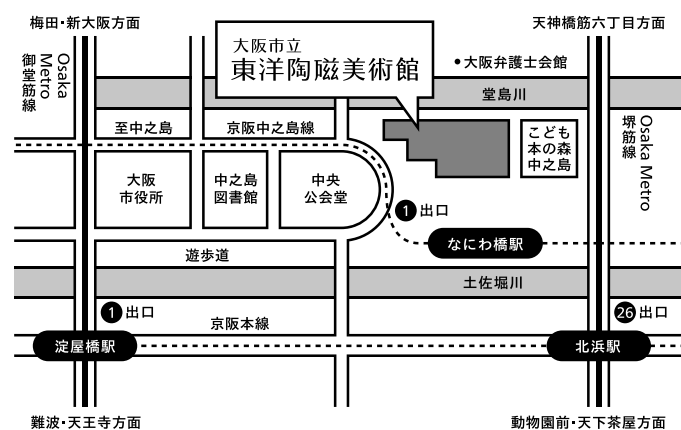
2024年6月8日(土) 午後2時～午後3時 (参加費:無料)

会場 大阪市立東洋陶磁美術館 地下講堂

※当館ホームページからお申し込みください。いずれも入館料が必要です。
※最新の情報は、当館ホームページをご覧ください。お電話でご確認ください。
※定員50名

入館料 一般 1,600円(1,400円)、高校生・大学生 800円(700円)

※()内は20名以上の団体料金
※中学生以下、障がい者手帳などをお持ちの方(介護者1名を含む)、
大阪市内在住の65歳以上の方(要証明)は無料



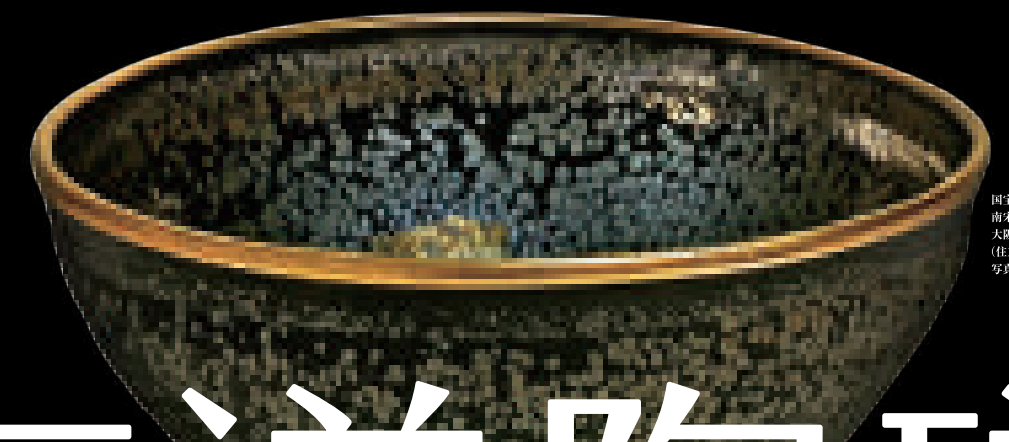
リニューアルオープン記念特別展



2024.4.12(金) - 9.29(日)

大阪市立 東洋陶磁美術館
THE MUSEUM OF ORIENTAL CERAMICS, OSAKA

開館時間:午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)
休館日:月曜日、5/7(火)、7/16(火)、8/13(火)、9/17(火)、9/24(火)
※但し祝日の4/29(月)、5/6(月)、7/15(月)、8/12(月)、9/16(月)、9/23(月)は開館
入館料:〔一般〕1,600円(1,400円)、『高校生・大学生』800円(700円)
※()内は20名以上の団体料金
※中学生以下、障がい者手帳などをお持ちの方(介護者1名を含む)
大阪市内在住の65歳以上の方(要証明)は無料



国宝 油滴天目茶碗
南宋時代・12-13世紀 建窯
大阪市立東洋陶磁美術館
(住友グループ寄贈/安宅コレクション)
写真:西川茂

東洋陶磁

MOCO コレクション

Reopening! The Museum of Oriental Ceramics, Osaka (MOCO)

主催:大阪市立東洋陶磁美術館 共催:NHK エンタープライズ近畿 協賛:株式会社 YAMAGIWA、コクヨマーケティング株式会社 後援:NHK 大阪放送局

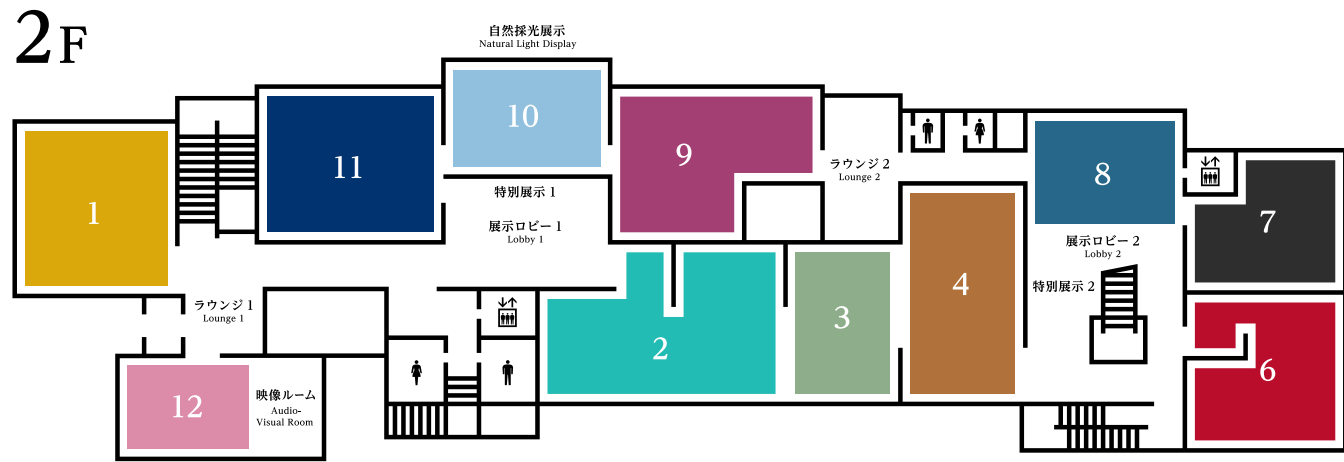
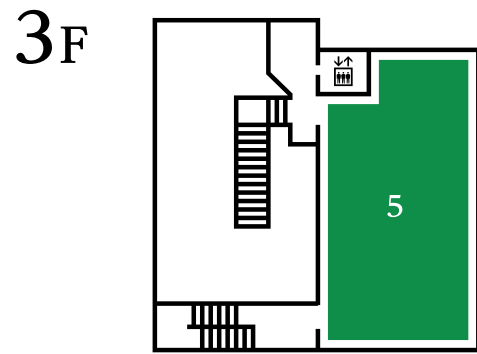
シン・東洋陶磁

1982年に開館し、すでに40年以上を経た大阪市立東洋陶磁美術館。
このたび約2年間の改修工を終え、リニューアルオープンします。
周辺環境をはじめとした時代の変化を踏まえ、今回の改修では、より多くの市民や利用者の皆様に親しまれ、さまざまな人々とつながる美術館に生まれ変わることを目指しました。

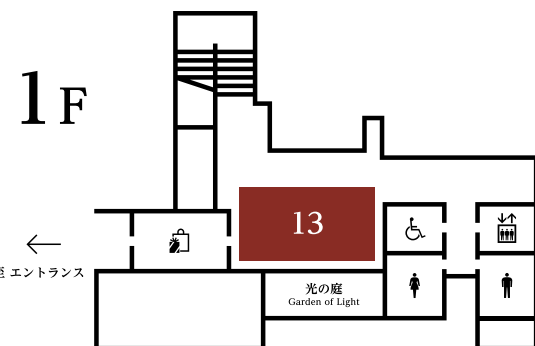
本展では、大阪市立東洋陶磁美術館(MOCO=モコ)が世界に誇る「安宅コレクション」や「李秉昌コレクション」を中心に、当館所蔵の珠玉の東洋陶磁コレクションなど約380点を、装い新たにご覧いただきます。

タイトルの「シン」には、「新」たなミュージアムへと歩み始めること、「真」の美しさとの出会い、「心」がワクワクする鑑賞体験を、という3つの願いを込めています。

大阪市立東洋陶磁美術館の原点であり続ける珠玉のコレクションの新たな魅力と価値に出会える、「シン・東洋陶磁」をご体感ください。



男性化粧室 Men's Restroom 女性化粧室 Women's Restroom 車いす対応トイレ Wheelchair accessible toilet エレベーター Elevator ミュージアムショップ Museum shop



展示構成と主な作品 ※1~13は展示構成

1 天下無敵

ザ・ベストMOCOコレクション

大阪市立東洋陶磁美術館 (MOCO) の原点である安宅コレクションを中心に、天下無敵のMOCOコレクションの中国陶磁と韓国陶磁の精華に出会う。



3 粉青尚白

安宅コレクション韓国陶磁

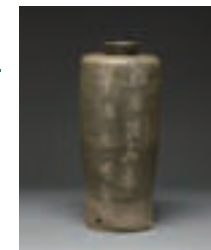
朝鮮時代前期を代表する粉青(ふんせい)は、日本では「三島(みしま)」の名で知られる。白色を尊ぶ儒教的美意識への変容を象徴する斬新な美の世界。



5 優艶質朴

李秉昌コレクション韓国陶磁

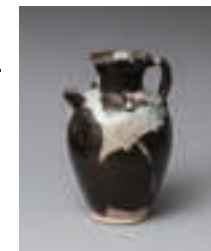
日本で韓国の古陶磁と出会った李秉昌博士が日本各地を巡り、半生をかけて築き上げた世界でも有数の個人コレクションにみる優艶と質朴の美の世界。



7 陶花爛漫

李秉昌コレクション中国陶磁

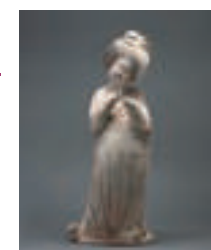
国際的視野をもった李秉昌博士が、韓国陶磁の研究に役立てる目的で収集した中国陶磁。新石器時代から宋・元時代までの未完の中国陶磁コレクションの世界。



9 明器幽遠

安宅コレクション中国陶磁

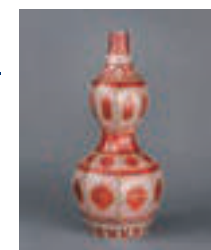
古代中国の墓に見られる副葬専用の器物である「明器」。当時の生活や文化、そして人々の豊かな暮らしへの願いをうかがい知ることができる幽遠なる明器の世界。



11 皇帝万歳

安宅コレクション中国陶磁

世界の「磁都」として1,000年以上の歴史を有する景德鎮。皇帝の徳を称える象徴でもある、元時代から明時代にかけてつくられた最高級の青花や五彩磁器の華麗なる美の世界。



13 泥土不滅

現代陶芸コレクション

泥土からかたちあるものを生み出す。人類の最も根源的な営みの一つであり、時を越えて継承されるその不滅の精神に出会う。



2 翡色幽玄

安宅コレクション韓国陶磁

高麗の人々が「翡色(ひしょく)」と呼び、そのヒスイのごとき輝きをたたえた高麗青磁。中国でも「天下第一」とされたその幽玄の美の世界。



4 清廉美白

安宅コレクション韓国陶磁

儒教思想を背景にした清らかな品格をたたえる朝鮮時代の白磁。見るものを優しく包みこむその清廉な美しさの世界。



6 陶魂無比

日本陶磁コレクション

東アジア先進の陶磁器やその文化を受容・継承しつつ、土や釉薬、かたちや文様などへの独特の志向やこだわりを見せた日本の陶磁器。各時代の陶磁器に込められた魂の軌跡と美の世界。



8 喜土愛楽

現代陶芸コレクション

土に様々な種類があるように、陶芸家の表現手段も千差万別である。つくり手の喜怒哀楽、様々な感情が込められた作品との対話のひとつ。



10 天青無窮

安宅コレクション中国陶磁

「天青」と形容される独特な青色の釉色、そして洗練された精緻なつくりを特色とする北宋時代の汝窯青磁。自然光のもとで味わう青磁の深遠なる美の世界。



12 百鼻繚乱

沖正一郎コレクション鼻煙壺

粉末状嗅ぎタバコ用の小型容器である鼻煙壺。実用品であり愛玩品でもあった中国鼻煙壺の「百華(鼻)繚乱」の魅力。



特別展示1.「国宝 油滴天目茶碗」
特別展示2.「青花虎蘭文壺」

- 1.「青花辰砂蓮花文壺」朝鮮時代・18世紀後半 安宅英一氏寄贈
- 2.「青磁瓜形瓶」高麗時代・12世紀前半 住友グループ寄贈/安宅コレクション
- 3.「粉青粉引盃」朝鮮時代・15世紀 住友グループ寄贈/安宅コレクション
- 4.「青花蓮文扁壺」朝鮮時代・16世紀 安宅昭弥氏寄贈
- 5.「青磁地象嵌詩鐘瓶」高麗時代・13世紀 李秉昌博士寄贈
- 6.「須恵器長頸瓶」奈良時代・7世紀末
- 7.「黒釉白灰水注」唐時代・8-9世紀 魯山段店窯 李秉昌博士寄贈
- 8.「2フィート・トル・ダグゴ」金子潤(1942-) 1999年 寺岡敬子氏寄贈
- 9.「加彩婦女俑」唐時代・8世紀 住友グループ寄贈/安宅コレクション
- 10.「青磁水仙盆」北宋時代・11世紀末-12世紀初 汝窯 住友グループ寄贈/安宅コレクション
- 11.「五彩金剛手瓢形瓶」明時代・16世紀 景德鎮窯 住友グループ寄贈/安宅コレクション
- 12.「粉彩花文鼻煙壺」清末-民国・19-20世紀 沖正一郎氏寄贈
- 13.「馬」鈴木治(1926-2001) 1982年